

---

新創刊 OECCの動きをお伝えするメディアです。

2025年、『OECC LETTER』を創刊いたします。  
メールによって、幅広い情報をタイムリーにお届けします。  
OECCの動きを感じていただけましたら、幸いです。

---

## CONTENTS

- ・新年のごあいさつ
  - ・特集 COP16／COP29レポート
  - ・OECC Webサイト 注目トピックス
  - ・海外出張 研究員こぼれ話
- 



### 新年のごあいさつ

「脱炭素・持続可能な社会に向け、国際的な取組に貢献」  
OECC理事長 竹本和彦

一般社団法人「海外環境協力センター」(OECC)は、気候変動対策や資源循環に加え、生物多様性保全など国際社会が直面する地球環境問題への対応や持続可能な社会形成に向けた海外環境開発協力分野において幅広い活動を展開しています。

またOECCは、これまでの活動を通じて育んできた国内外のネットワークをフル活用することにより、「環境インフラ海外展開プラットフォーム」(JPRSI) や「フルオロカーボン・イニシアティブ」(IFL)の事務局としての役割を担うなど我が国の国際的な取組に貢献しています。

2024年11月アゼルバイジャンの首都バクーにて開催された気候変動枠組条約COP29では、パリ協定第6条に基づく炭素市場ルールが最終合意に至り、また気候資金に関し、「2035年までに少なくとも年間3,000億ドルを官民その他の多様な資金源から動員する」との世界目標が合意されました。さらに、私自身参加したサイドイベントでは、気候変動対策を進めるうえで重要な役割を果たす都市と国の機関との連携についてさらなる強化に向けた議論が展開されました。

他方、先般WMOより2024年の世界平均気温の産業革命前からの上昇幅がすでに1.5度を超えているとの分析結果が発表されており、とりわけ近年、気候変動に起因する被害が世界各地において頻発しています。こうしたことを背景として、「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)は、第7次評価報告書サイクルにおいて「気候変動と都市に関する特別報告書」の作成作業を開始しています。

OECCは、世界が脱炭素・持続可能な社会の実現に向けダイナミックな変革を遂げる中、国際社会からの期待に応えるべく、これまで培ってきた知見や専門性をフルに発揮して、幅広い分野において貢献するとともに、今後ともさらなる研鑽を積み重ね、我が国の海外環境開発協力分野における中核的組織に相応しい役割を果たしてまいります。

※Webサイトの「理事長メッセージ」でも、本稿をご覧くださいませ。



**COP16**  
COLOMBIA  
Paz con la Naturaleza

### COP16／COP29レポート

「生物多様性条約締約国会議(CBD-COP16)に参加して」@  
コロンビア・カリ



**COP29**  
Baku  
Azerbaijan

「PHOTOレポート 気候変動枠組条約締結国会議COP29」@  
アゼルバイジャン・バクー

◎生物多様性条約締約国会議(CBD-COP16)に参加して

@コロンビア・カリ

OECC研究員 青木遥香



2024年10月21日から11月2日まで、コロンビアのカリで開催された国連の第16回生物多様性条約締約国会議(CBD-COP16)に、政府代表団の一員として参加しました。

OECCでは、環境に関する国際情勢の調査や国際会議の記録作成の豊富な経験を活かし、遺伝資源およびデジタル遺伝資源情報(DSI)に関する国際交渉の支援を行っています。今回のCBD-COP16でも、遺伝資源およびDSIを含む議題の調査・記録業務に従事しました。

CBD-COPは、生物多様性の保全や持続可能な利用、遺伝資源の利用に伴う利益配分について、196カ国が議論を行う国際会議です。会議では、絶滅危惧種の保護や生態系の修復、気候変動を考慮した保全計画、発展途上国への資金・技術支援といった重要なテーマが取り上げられました。

特に印象的だったのは、各国の交渉官たちが異なる意見を調整しながら妥協案を導き出し、合意形成に向けて尽力する姿でした。彼らの高い交渉力、実務能力、そして長時間の交渉に耐えるタフネスには大いに刺激を受けました。この経験を通じて、国際的な場で必要とされるスキルの重要性を改めて実感するとともに、自分自身の課題も見つけることができました。

今後は、生物多様性に関する知識をさらに深めるとともに、英語で議論をリードするスキルの向上を目指していきたいと考えています。このような貴重な機会を与えていただいたことに心から感謝し、この経験を糧に引き続き努力を重ねていきたいと思えます。

※本稿は「OECC LETTER」向けのダイジェスト版です。全文はWebサイト「活動報告」に掲載しています。下記からご覧ください。

◎PHOTOレポート 気候変動枠組条約締結国会議COP29  
@アゼルバイジャン・バクー



2024年11月にアゼルバイジャンで開催されたCOP29。OECCは各国政府、国際機関等と共同でサイドイベントを開催支援し、研究員も登壇しました。活動内容および現地の様子を、OECC研究員の撮影写真でレポートします。

●COP29におけるOECCの活動





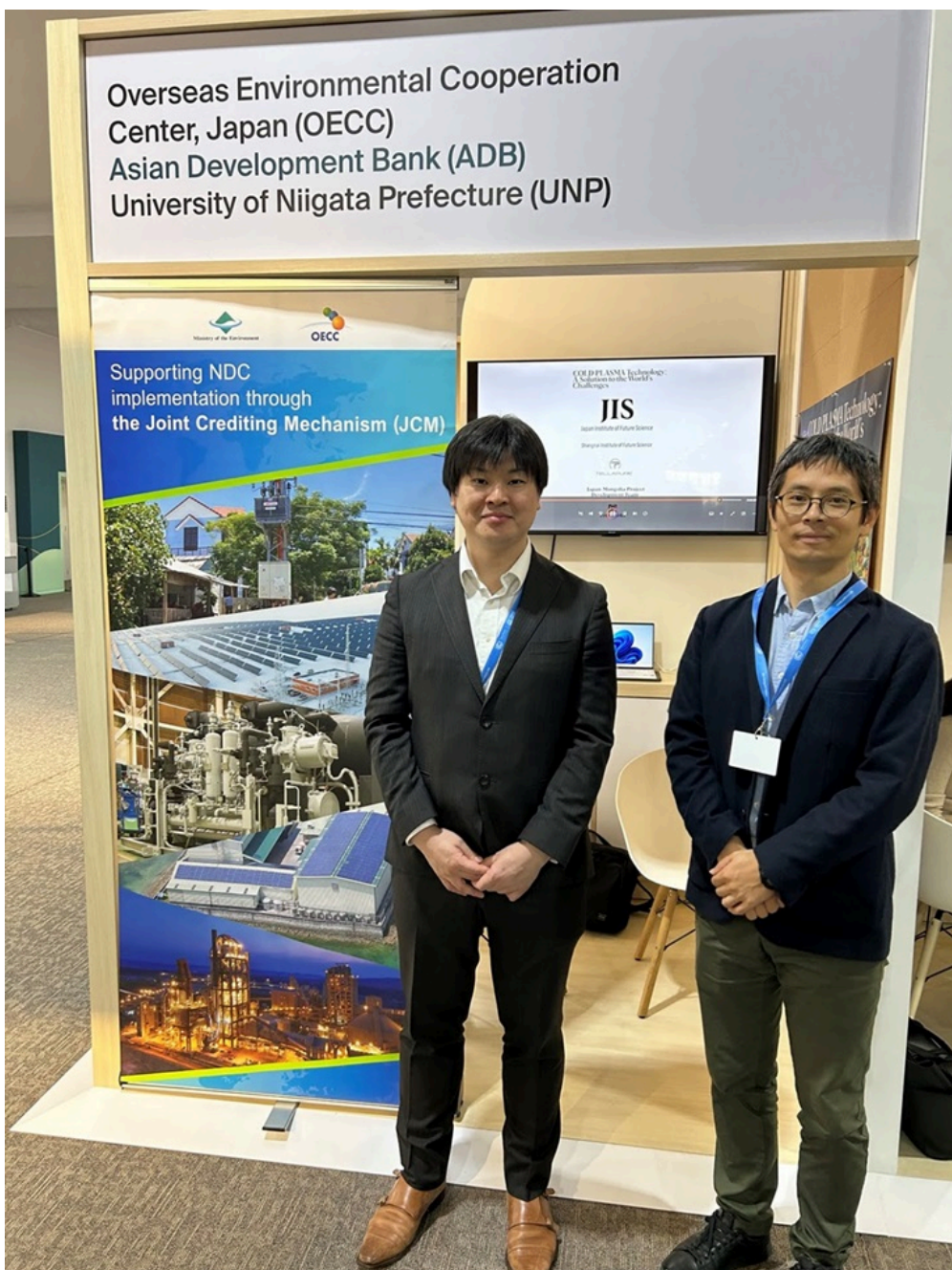


▲JCMの規模拡大、気候情報の透明性推進など、多様なテーマにおけるサイドイベントを支援しました。フロンに関するイベントでは、国連環境計画(UNEP) オゾン事務局長の関めぐみ氏(本キャプションすぐ上の写真、左)にもご登壇いただきました。





▲政府代表団の一員として、OECC研究員が気候変動にかかわる国際交渉に携わりました。



▲OECCの展示ブースはメイン会場入口付近の最前列に配置され、多くの参加者の注目を集めました。

●COP29 会場の様子



▲熱心な参加者が、朝から行列をなして待機していました。会場では、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が集い、議論の場を共にしました。





▲国や国連などのほかにも、さまざまな機関がCOP29に出展。気候変動に対する視点の多様性が表れています。





▲開催地アゼルバイジャンの伝統的な織物・キリムの展示。古代から多くの民族が行き交う地域で、高度な技が育まれてきました。

※さらに多くの写真や、開催支援したイベントの詳細を、OECC Webサイト COP29特集ページに掲載しています。下記からご覧ください。

## OECC Webサイト 注目トピックス

### [活動報告](#)

#### 活動報告

Activity Report



記事を探す



OECCが取り組むさまざまなプロジェクトを職員自ら発信。最新は、2024年10～11月にタイで行われたMOP36におけるOECCの活動です。

### [COP29特集](#)



今回のメールマガジンでもお伝えした、COP29におけるOECCの活動。開催支援したサイドイベントの情報や、現地の写真をまとめています。

### [職員の声](#)



OECCで働く職員の声を、順次掲載しています。入職のきっかけや担当業務はさまざま。個性を生かして活躍している様子をお伝えします。

### [Ozone MOP36特集](#)



モントリオール議定書 Ozone MOPの特集ページを2024年に新設。公式ワークショップやブース展示など、OECCの発信を紹介しています。

### 海外出張 研究員こぼれ話

「中国、会議場にパンダも!?!」





2024年11月、中国の成都にて日中韓政策対話があり、OECCは支援スタッフとして参加しました。

[環境省 報道発表](#)

会議場にはパンダも!? 実は壁全面が組み立て式LEDパネルとなっており、このパンダ画像も含め、プレゼンテーションが鮮明に映し出されます。

縦20cm横30cmくらいのユニットパネルを画面サイズに合わせて敷き詰める方式で、さまざまな部屋の大きさに対応でき、故障が起きても当該ユニットパネルの交換で修理可能。

現地スタッフによると、最近は多くの会議場でこれが使われているとのこと。IT技術とかわいい動物の組み合わせに、研究員も思わずにっこりでした。

---

本メールマガジン「OECC LETTER」は、OECC会員企業・団体のみなさま、配信ご希望の連絡をいただいた方、およびOECC職員がごあいさつさせていただいた方などにお送りしています。

配信停止：[こちら](#) のフォームからご連絡ください  
個人情報保護方針：[こちら](#) をご覧ください



発行：一般社団法人 海外環境協力センター(OECC)  
東京都千代田区内幸町1-3-1 幸ビルディング3階

2025年1月

FOLLOW US! (OECC広報アカウント)

